

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號四第 卷七十第

行發日一月十年二十正大

論叢

獨身概論 法學博士 財部 靜治

モソンの社會改造哲學及び連帶思想 文學博士 米田庄太郎

植民地の經濟政策に就きて 法學博士 山本美越乃

海運に於ける競争と獨占との分界 法學士 小島昌太郎

時論

震災經濟觀 法學博士 河田 嗣郎

時局緊急の經濟關係諸勅令 法學博士 神戶 正雄

說苑

安政の震災と救濟策 法學士 本庄榮治郎

勞働生産力と勞賃 經濟學士 森 耕二郎

雜錄

原始的土地所有權の一例 法學博士 河 上 肇

兌換券と物價指數との關係 經濟學士 蜷 川 虎三

戰後獨逸の大學生數 經濟學士 岡崎 文規

時論

震災經濟觀

河田 嗣 郎

一 文化的影響と經濟的影響

關東地方今回の震災は、未曾有の禍害を齎らし、その損害の莫大なりしこと、其の復舊の困難なるべきことに就いては、全國民その感を同うしつゝある所である。私は今此の大慘害に就いて經濟眼より少しく觀察を試みたいと思ふのだが、それを爲すに就いては、一般文化的の意義と經濟的の意義とを分ち致へ、又災害の中心地たる東京と横濱とが、一般文化上並びに經濟上に於て占むる地位に就いて分ち致ふることの、先づ以て必要なるを見る。

東京は謂ふ迄もなく我國に於ける文化の大中心地で又同時に我國第一の大都市であつた。されば東京の大部分が焼失したといふ事實は、東京が帝國の首府であり又あらゆる文化の中心地であつた其の地位から之を見た損失其他の影響と、大都市として東京が占めて居た其の地位から之を

見た損失其他の影響とを、二重に二様の意義を以て生せしめた。然るに横濱市に至つてはたゞ一
の主要貿易港としての大都市たる地位しか占めて居なかつたから、其の焼燼に依つて生ずる影響
も、主として經濟的の意義のものたるに過ぎぬ。而して東京は我國一般文化の上から之を觀れば
殆んど唯一の中心地であり、其唯一中心地としての實力を有し又機能發揮して居たのだが、大
都市としての其の經濟上の地位から謂へば、市街地の廣袤や人口の數に於ては、日本一だつたけ
れども、然しその經濟上の機能に至つては、決して獨り我が國民經濟の中樞たるを許されず、大
阪神戸名古屋などと相並んで、たゞ兄分としての地位を占むるに過ぎなかつた。

從て今東京及横濱の焼燼に就いて其の影響する所を見れば、文化の中心たり帝國の首府たる東
京の焼燼は、其の影響する所全國的であり、恰も腦髓の大疾患に依て全身に涉つて故障が生じ殆
んど半身不隨に近き憂ふべき状態を生ずるに至つたが、大工業地たり又大商業地たる大都市とし
ての東京市の焼燼と、大輸出貿易港たる横濱市の破壊消亡とは、その影響する所や、局部的で、
爲めに全國の經濟活動を麻痺するに至らしめるが如きことはない。尤も現時の發達せる社會經濟
は、全國をして一の有機的形體たるに至らしめたから、その意味に於ては東京及横濱兩市の壊滅
は、全國的に多大なる打撃を感じしめないでは止まぬけれども、それは主として金融の關係や物
資交易上の關係に於て一時的の紊亂とや、永續的な不便とを生せしむることを意味し、所詮その

影響は、文化の中心樞軸たる東京の焼失が、全國文化の上に及ぼすほどの大なる意義のものではあり得ない。

右兩様の意義の下に兩様の影響が窺ひ得られる中に在つて、茲には文化の中心たる東京の焼失が、我國の文化一般に對して及ぼす影響に就いては之を論ずることなく、その方面はお預りとして、たゞ主として大都市としての東京市及横濱市の壊滅が經濟的に及ぼす影響に就いて論示する所あらんと欲する。

二 焼失の損害と金融上の應急策

經濟的大都市としての東京の半以上然かもその經濟活動の本舞臺だつた所の市區が焼失したことは、横濱市が字義通り全滅したこととは、その經濟上の損失といふ點からいへば、容易に恢復すべからざるほどの國家の大損失であつて、その建物、商品、家具什器等を失つただけから觀ても、國家の被れる損害は蓋し何十億圓を以て數ふべきであらう。之を先年世界大戰の際に我國が輸出貿易の隆盛に依て儲け得た金額に比較しても、恐くはそれ以上の金額に上るほどの損失たるべきを思はしめる。況んや建物機械等と併せて事業を失つたる工場、店舗と商品とを併せ失つた商人、家屋什具衣服其他一切の財寶を失つた人々、其等その個々に就いて見れば、その損

失と痛恨とは想像に餘る次第である。けれども此の經濟上の莫大なる損失も、尙ほ之を帝國大學に於ける圖書並びに研究設備の燒亡や、神田方面の燒失に依つて幾百萬卷の圖書資料の失はれたることや、又出版印刷の機能の破壊されたることなどの爲めに、我國の一般文化の被れる損害に比較すれば、まだ少いものであるかも知れぬ。智識の源泉としての圖書や研究設備、乃至は古美術品や史料其他の研究資料の如きに至つては、中には後日之を恢復せんとするも到底不可能なるものも少からず、諸多の研究資料や或種の書籍の如きは、その商品としての經濟價值に至つては比較的低廉なるものであつても、その學問上の價值に至つては計り知るべからざるほど大なるものあるを思はなくてはならぬ。

次に經濟界に於ける指導的勢力たる金融關係に就いて見れば、東京市が國內最大の經濟都市として諸都市に對する兄分の地位に居つたこと、横濱市が我國第一の輸出貿易港として特に我國輸出貿易の大宗たる生絲の輸出港たる地位に居つたこと、は、此等の地方の破滅をして、全國金融市場に對する大痛撃たらしめた。尤も東京市中に在つては、銀行の如きは悉く燒亡したわけではなく、燒失を免れた諸銀行は多くは罹災後旬日を出でずして開店して業務の一部分は行ふことゝなつたほどだつたけれども、何しろ東京には大銀行の本店が多數に存在し、又東京及横濱に對する全國諸地方の金融取引は繁激で複雑なものであつたから、金融方面に於ける震災の影響は、

罹災地は勿論のこと、全國的にも可也多大なるを免れ得なかつた。手形の決済や荷爲替關係其他に於て、隨分の困難あるべきは、誰しも想像し得る所なりとする。

此の困難を一時救済せんが爲めに、政府が時機を失せず罹災地方に對して支拂猶豫令を發したのは、洵に當を得た處置で、事情の上より見て當然のことではあつたけれども、ともかく策の得たるものと謂はねばならぬ。而して金融方面に於ける打撃が全國的で、その方面に於ける秩序の紊亂は特に大阪神戸名古屋地方には影響する所多大なるが爲めに、此のモラトリウムは其の行はるべき範圍を限定せず全國的に（少くとも阪神名古屋地方にまで）效力あるものたらしむるを可とするといふ議論も、一時或方面ではかなり熾に唱へられ、今尙ほ其の希望を懷いて居る人々も所謂有力實業家の中には少からず存在するやうだが、然し震災に依て生せる金融界の困難が斯かる程度にまで甚大なりとは私は信じ得ぬ。事業家が自己の關係せる業務上の便宜から之を主張するのは論外だが、今冷靜に事情の實際を察する者の眼には、モラトリウムの如き謂はゞ緊急止むを得ざるに出づる一種の法的効果發生停止令を、さう濫用すべきものではなく、罹災地以外に於ける實狀が斯かるものを必要とするほどの緊急状態に陥つたとは見得られぬ。之は飽迄罹災地方に限り効力あるものとして、又その効力も當初定められたる期間だけとし、意外の恐慌的事變の發生せざる限り、之を擴張したり延期したりすることのないやう、政府は確乎たる態度を以て押切

るべきである。大戦勃發當時の如く國內乃至國際一般的に金融界の秩序の紊亂する時ならば致方もないが、然らざる限り今回の如き場合に際し、支拂猶豫令の効力を全國的ならしめ又は其の期間を長くすることは、爲めに却つて金融界を不安定ならしめ、一般經濟界の人心と業務とを不安ならしめ、時局の困難をば却つて好むで大ならしむるに至る外、困難救済の道としては其の必要もなければ又望まじきことでもない。その効力が地方的に又時間的に限定せらるればせられるほど、金融界は自衛的に却つて早く安定すべきものたるを疑ふことが出來ぬ。

三 物資徵發と暴利取締

次に物資の供給交易上に對して震災の及ぼせる影響に就いて見るに、之に就いては、一時的に罹災者の救助の爲めに表はれる現象と、罹災地復舊の爲めに表はれる現象とを別ち考へる必要がある。罹災者を急速に救助するといふ事業はまことに全國的な事業であるから、之が爲めに諸地方に於ける物資需給の状態の紊亂さるゝことありとも、之は諸地方の甘受すべき所で、その意味に於て影響は全國的である。

然し此の方面に於ても亦、物資の罹災地に對する供給を迅速且つ潤澤且つ圓滑ならしめん爲めに、或は徵發令を布き又暴利取締令を布くといふ一段になれば、そこにやはり其の及ぶべき効果

に就いて、考慮すべきものがある。即ち徵發令の如きは元來一時的應急の政策なるべき性質のものであるから、之は罹災地並びに主として之に物資の供給を爲すべき地位に在る土地に對して行はるべきもので、その効力は法的には全國に及ぶべきものとするも、その實際的適用は、右等特殊の地方に限局さるべき性質のものである。又その効力の及ぶ時期もあまり長からざるを要し、罹災者應急救濟事業の一段落を告ぐると同時に、之を廢止するを以て至當とする。

然るに彼の暴利取締令に至つては、應急策としては物資徵發令と相呼應して働くべきものだけれども、之はその及ぶべき効力の範圍が場所的にも時間的にも、制限せらるゝ必要あるものではない。廣く之を全國に及ぼし、苟も同胞の不幸に際して火事場盜棒的に暴利を貪るが如き非社會的動物は人間社會より放逐しても然るべきほどであつて、此等は暴利取締令の効力を十分多大にして、全般的にドシ／＼嚴重に取締るべきものなりとする。又その効力の續くべき時期も之を應急救濟事業と共にすべきものではなく、罹災地復舊事業の完成するまで之を持續せしめて何の差支もない。否暴利取締の如きは社會的公共任務として、日常不斷に行はれて然るべき性質のもので、法令としては永續のものに爲し置き、暴利者に對しては、何時にても之を活用して其の不屈を懲罰する所あつて可なりとまで私は信じて居る。社會的共同心の發揮と訓練とは、先づ斯くの如き道に依つて、不屈者を處罰する方便を備へて行はれる必要がある。

私は先年米騒動の起る前後にも之を思つたことであり、其後も時々之を思はせられ、今回又しみづゝ其感を深からしめられたのだが、商人なるものが、幾ら營利を以て業務の生命と爲すものなりとはいへ、社會一般の困難をも顧みず、却つて愈々其困難を助長して、其際己れ一人若くは同類の者のみ温く温くと腹を肥さん爲めに、或は高値を吹きかけたり買占を行つたり賣惜を行つたり、其他あらゆる奸策詭計を廻らして暴利を貪らんとする者を出すが如きは、然かも放任して置けば其數幾らでも多くなり、市中を擧つて暴利者たらんとするが如きにも至るべしと思はるゝ如き實情あるは、今日の社會生活上より之を觀て、何といふ賤むべく惡むべく蔑むべく憤るべきことであらう。

四 應急救助と復舊事業

震災に關する經濟觀を試むるに就いて見遁すべからざることは、罹災者に對する應急救助の問題と、震害復舊に關する問題とを區別すべきことである。此の兩者は動もすれば世人より無意識的に混同せられる恐があるが、十分明瞭に區別されねばならぬ。

先づ罹災者に對する應急救助の問題に就いて見れば、何しろ東京横濱其他の罹災者總數は百數十萬人に上ほり死傷者だけでも幾十萬を以て數ふべき未曾有の大慘害で、罹災者中少數なる富裕

者階級を除き、中産以下の者に至つては、家と家具衣類と一切を焼かれ、差當り雨露を凌ぐべき處もなく、都度の食物をも得る能はざる狀況に在るのだから、此等多數の罹災者に對する救助の事業は、全國民を擧つて眞の舉國一致の働として行はねばならぬ。否問題は單に一國民に限られた問題ではなく、全人類の問題とも見らるべきもので、斯くも多數の人々が一時に路傍に迷ふが如き大悲慘事の發生は、長き人類の歴史にもさう度々はなかつた。之が救濟の事業は元來人類愛的な同情から出て來る所なのだから、全人類的な事業と見てよいのである。まして我等日本國民たるものは、滿腔の同情と最善の努力とを以て、一日も速かに有效にして遺憾なき救濟を爲し遂げねばならぬ。

そして其の救濟の事業は、罹災者を罹災地に留めて置て、之に對する衣食住の供給を爲す方法と併せて、此際罹災地を立退き得る状態に在る者は、成るべく地方に分散送致して之を救濟し又之に生業を興へる方法とで以て行はれるのだが、私は後者に對しては十分なる力の注がれんことを希望せざるを得ない。實を謂へば從來東京には餘りに人口が集まり過ぎて居た。その集つたのは東京があらゆる文化の中心だつた爲めに己むを得ぬ勢だつたけれども、何しろ二百萬以上の人口を有し、一都市としては廣過ぎるほど廣くなり、それに經濟の實力之に伴はないものだから、家屋建物は不完全で交通機關は甚だ以て不十分であり、現代都市としては不完全極まる状態に在

り、世界第一の龐大な田舎町を形造つて居る有様であつた。何れにしても人口過剰の譏を免れ得なかつたのである。されば此際東京を離れ得る状態にある人々は、多少の無理をしても地方へ分散した方が、一國の社會構成上より之を觀ても、文化の上より之を見ても、好ましき所と謂はねばならぬ。概して日本人は一般的に東京崇拜熱に侵されて居るのだが、さう無茶苦茶に人が集つても實は困つたものである。此際少しく人口を地方に分散し、特に勞働力の不足せる農村地方に歸還することゝもならば、蓋し一舉兩得であらう。

罹災者に對する一時的應急施設として行はれるものに就き尙ほ一言せなければならぬことは、穀物、肉類等に關する又木材其他建築材料に關する輸入關稅の免除のことである。之亦應急策としては洵に當を得たる施設であつて、政府の之を行へることに對して誰しも異存のあるべき筈はない。尤も關稅が輸入品の内地價格の上に何程直接の効果を及ぼすかに就いては、由來色々議論のあることだが、今日の如き場合に、直接多少の効果あるべきは想像し易い所だから、政策としては不當の所置と謂ふことは出來ぬ。併し茲に注意すべきことは、此種の施設はたゞ一時的の應急手段として行はれるに於てのみ全國民一般の賛成を得べきことであつて、之を永久的施設と爲すといふことになれば、必ず彼此物議を生じ、舉國一致の賛成は望み難い。即ち我國に於ける關稅には内地産業保護の意味の加はつたものが多く、農産物の如きも内地農業保護の目的で以

て關稅の課せられるものが多い。されば近時の如く農業疲弊の勢の著明ならんとする時期に際しては、地方農民は輸入保護關稅の有無に就いては、かなり神經を尖らして居るのだから、食料品等に對する關稅免除が、罹災者に對する一時的救濟の必要の爲め以上に、長きに涉つて行はれるに於ては、之れ國民人口に對する比例からいへば、比較的少數なる罹災者の爲めに、全國の農民一般の利益を犠牲にし、さなきだに危からんとする我國の農業の運命を益々危くするものとして必ず其の反抗運動をも見るに至るべきを豫想せなければならぬ。私一個人の意見としては、我國現在の關稅程度を以てしては、農産物に對する輸入關稅は、人の想像するほど強き意味に於て内地農業の保護の效果を生じ得ないと信じて居るから、農民側に於てさう此事を神經にさへることはないと思ふけれども、然し農産物關稅が保護政策上の見地から課せられて居るものたる限り、其の免除を罹災者救助の爲めに必要な期間以上に永く行ふことは、政策上農民側の反對を受くるの避け難きを覺悟せねばならぬ。そして其の場合農民一般の利益を犠牲にし得べからざることとは言ふ迄もない。

五 首府再建の事業

右は罹災者に對する一時的應急救助に就いてのことだが、次に問題となるは、さて其の應急施

設も大體目鼻のついた上、罹災地を復興することに關する問題之である。此の問題は罹災者救助問題とは明瞭に之を區別すべきものたるは、既述の通りだが、同時に又その罹災地復興といふ意義の中にも、東京と横濱其他の地方とは、頗る意義の同じからざるものあるを知らねばならぬ。東京は一面に於て帝國の首府たると同時に、他面に於て一大經濟都市たる二重の意義を有しその地位を占めて居る。然るに横濱市の如きはたゞ一の經濟都市たるに過ぎず、其他の罹災諸地方も經濟的の意味に於て、都市たり農村たり、又は單なる別莊地たり温泉場たるが如きものである。此等の區別も亦十分之を明瞭にした上で復舊の問題は攷究せらるべき次第で、その區別を混同しては議論は甚だ混雜し、事業は又妙なものとならざるを得ない。そして私は東京市の如く一地にして二重の意義と地位とを有するものに於て復興に關する事業の混雜特に甚しきを思ふ。

そこで先づ帝國の首府としての東京の復舊といふ問題を考へ、次に一經濟都市としての東京市及び横濱市等のことを攷へて見ることにする。

帝國の首府を再建するといふ事は、實に全國家的の事業である。その事業が今日の如く經濟界の一般的に不景氣なる時期に際して頗る困難の事業たるべきは、絮説を俟たざる次第だが、如何に困難なりとも、出來得べき程度の最善に於て事業は成就されねばならぬ。そして帝國の首府は必ず從來の東京でなければならぬといふ筈はないから、之を東京の燒跡へ再建するか、それとも

場所を變へて新たに建立するかは、尙ほ十分慎重に考慮講究すべき餘地ありとしても、ともかくその事業が國家的大事業として行はるべきことには異論ない。之に對しては又國民一般は喜むで其の經費負擔に任すべきことも、論を俟たざる所なりとする。

併し首府の再建を行ふといふことは、それだけの意味からいへば、之を東京の地に再建するにしても、東京を舊の如き又はそれ以上の立派な町にするといふことを、當然に必要とするものではない。それと此とは別問題たるを異々も忘れてはならぬ。首府の建立はたゞ帝國中央政治機關の設備と關係とを造り上げるといふことなのだから、その目星しい所だけを道へば、皇居と中央諸官署と帝國議會とを、その建物と設備と之に附隨する諸般の施設とに於て造り上げ、此と地方諸官署との連絡關係を造り成せばそれでよいのである。大きな官廳でも例へば大審院や行政裁判所の如きは必ずしも首府になければならぬ筈はない。

従て此の首府の建造といふ事業は之を經濟的に見れば、今日普通に人々が想像するほど大仰山な事業ではなく、東京市の焼失により五十億圓乃至百億圓の損害が生じたから、首府を再建するには又それ相當に莫大な經費を要するが如くに一概に想像する人々も少ないやうだが、それは首府たる東京と一經濟都市としての東京とを混同し、一しよくちやにして考へるから、そんな見當違を生ずるに過ぎぬ。首府だけの建設ならば、相當之を立派なものにしても、今の我國の經濟的

國力を以てし、全國一般が其の事業を翼賛してかへりさへすれば、優に之を成就し得べき見込がある。そして其の經費の支辨方法は、事業の性質が全く臨時的のものであるから、主として公債發行に依るべきものを疑ふことが出來ぬ。而して其の公債ならば、一種の愛國公債として戦時公債同様に、國民の義心に訴へても調達され得べき見込がある。之を基とし、もし萬一にも不足せば外債に待つも可なるべく、その外債が相當に好成績を擧げ得べきことも、現在の我國民經濟に對する世界の信用と今回の事變に對する同情とに鑑みて、信じ得らるべき理由がある。そして若し内外債共にまだ十分經費を調達し得ざる場合が萬一にもありとせば、一時的財産税を設けても然るべきことである。曾て一九一二、三年の頃獨逸が軍備擴張の爲めに臨時的財産税を設けた例などに比較すれば、どれだけ名正うして實亦意義に富めるか知れない。國民は敢て之をも避けぬであらう。

それにしても此の事業は國家的事業であり、國民一般の負擔に待つべきものなのだから、其の計畫の爲めには、廣く全國より智識と技能とを集め、十分周密なる研究を行つて、それこそ百年の長計たるばかりではなく千萬年の長計を立つべきである。その爲めには全國的な計畫委員會を設くるも必要であるし、經費は固より帝國議會の協賛を待つべきもので、然も又そう慌てゝやらなければならぬこともない。先づ當座は假事務所的のものを造つて政務を行ひ、十分精密に計畫

し萬遺漏なきを期し、國民經濟狀態の之を許すに従て、事業を遂行すべきものとする。政府の存や東京地方の少數有力者や實業家などの意見で以て、事の行はるべき性質のものではない。もし此等が專横にも急惶かゝる大事を決して、事業を行ふが如きことあらば、それこそ專制的寡頭政治の甚しきもの、國民一般は決してかゝる專制を甘受せぬであらう。

六 經濟都市としての復興事業

次は經濟都市としての東京市の復興事業である。此の事業は前に述べたやうに、首府を再建する事業とは全く別個のものであつて、首府がたとへ從來通り東京に再建せられるにしても、兩者は明瞭に區別されねばならぬ。現在世に行はれて居る東京復興運動には、兩者を混同して大東京復興なるものが唱道せられ、然かもそれを以て直ちに國家事業なるが如くに唱へられて居るものがある。洵に奇怪千萬と道はねばならぬ。首府の再建こそ國家的事業として其の經費と努力とは國民一般の之を負擔すべきものたれ、一經濟都市としての東京市の復興に至つては之たゞ一地方の問題たり事業たるに過ぎぬ。たとへ東京市が從來日本一の大都市であり、あらゆる文化の中心であつたからとて、其の復興の事業を以て、國民一般の之に當るべき國家的事業と見ることは出來ぬ。

經濟都市としての東京の復興事業は、一地方自治體としての東京市が之に當るべき任務で、つまりは東京市民の自營事業たるに外ならぬ。即ち上水道・下水道・電車等の設備、公園・圖書館其他の設備、又場合によつては電燈瓦斯の供給の設備、職業紹介所・無料宿泊所・共同浴場其他の社會的設備の如き、總て東京市の自ら之を行ふべきものである。そして工場や店舗や住宅やの建築設備等に至つては固より各個人なり會社なりの之を行ふべきものたるや言を俟たぬ。之に國家的事業の來り加はるものと謂へば、電信電話の設備を爲す位のことたるに過ぎぬ。要するに其の事業の大部分は自治體としての東京市及び其の住民の直接之に當るべきものであつて、たとへ東京市が帝國首府の所在地たるにしても、此等東京市自身の任務として遂行すべき事業を、國家が代り行ふべき筋合のものでもなければ、又他都市に對する釣合上大いに均衡を失するが如き大いなる國庫補助の行はれて然るべきものでもない。

論者中には或は、事理は斯くの如くなりとするも、國家の大いなる補助(特に經費上の補助)なくしては、東京市の復舊は容易に行はれ難く、東京市の獨力でする分では、將來の東京市は洵に貧弱なる都市たるに過ぎないで、帝國の首府としては餘りに目すほらしきものとなる外はないであらう。苟も東京を依然帝國の首府たらしむる限り、經濟都市としての東京の復興も亦國家的事業として行はれることとする外はないと論ずる者があるであらう。とかく斯かる議論は東京市の

經濟的復興に對して多大の利害關係を個人的に有する人々の間から出て來さうな議論だが、世にこんな得手勝手な議論はないのである。私は前にも之を一言したやうに、帝國の首府は必ずしも國內第一の大都市に在らねばならぬことは無いと信する。經濟的には二流三流の都市たるに過ぎざるものであつても何の差支もないことで、現に米國の首府ワシントンが紐育や市俄古などにくらべてよほど小さな都市に在つて、然かもそこに却つて都合のよいこと、面白味とあるを思へば、東京が帝國の首府であり乍ら、東京市は國內二三流の都會であつた所で、何の不思議もない。況んや東京市が、その市民の奮勵努力に依て、今一度國內第一の大都會となり得るならば、こんな結構なことはないのである。

七 都市復興事業の困難

經濟都市としての東京市の復興事業は右述の如く東京市民の之を負擔し遂行すべき地方的事業であつて、其の意味に於ては東京市の復興事業と横濱市の復興事業とは同一義のものであるが、然らばさて今の東京市民及び横濱市民に前にも劣らぬ立派な大都市を造り上ぐる力ありや否やといふことになれば、問題は容易に答の出來兼ねる難問題たらざるを得ない。そして其の復興事業の爲めに差當り最も重要なる關係を有するものは、焼失したる家屋建物及び動産に對する火災保

險金の支拂が果して行はれるや否や、行はれるとすれば損害の幾割位は辨償さるゝ、實力が保險會社にあるかといふこと之である。傳へらるゝ所によれば、東京及び横濱に涉り罹災家屋及び動産の保險契約總額二十二億五千九百萬圓で、其中英米の保險會社に再保險されたるもの十六億餘萬圓と稱せられて居る。されば若し此の全額が支拂はれるに於ては損害の半額か少くも三分一はそれに依つて辨償せられ復舊事業は比較的容易に行はれることになり得る。然るに内國保險會社五十二社の火災に對する責任準備金は僅かに四千五百餘萬圓で、各社拂込金額合計八千餘萬圓にしか上らぬと傳へられて居るから(大阪朝日新聞第一萬五千三號)之に外國會社の支拂準備供託金及責任準備金約六百萬圓を加へ、更に各會社が全財産を傾けて保險金の支拂を爲しても、保險契約額の十分一足らず位しか辨償し能はざる次第である。然るに保險會社は火災保險の普通約款第十七條に地震又は噴火の爲めに生じたる火災及び類燒の場合には保險金支拂の義務に任せぬとある所から、之を盾に今回震災地の火災に對しては保險金支拂を拒絶するかも知れぬ。よし大いに人道心を發揮して其の支拂を爲すにしても、妥協的に一部分の支拂を以て事を濟まさんと努むるに相違ない。私は社會政策的に此の問題を見、火災保險制度存立の社會的意義より之を致ふれば、此際各保險會社はたとへ其の爲に破産しても力の能ふ限り保險金の支拂を爲すべきもので、斯くて會社が倒れるのならば、それは制度としての任務に斃れるもので、洵に名譽の討死だと謂ふべ

きものと信する。

併しそれにしても保険金は契約額の一小部分にしか達せぬ次第だから、東京市及横濱市の復興に要する費用の大部分は市民に於て之を負担する覺悟と實力とが無くてはならぬ。所が今の不景氣な經濟狀態の下に於て果してどれだけの實力が両市民に在るだらう。私には想像はつかぬが、何れにしても事業が頗る難事業たることだけは信じて間違ないと思はれる。そして其の費用はやはり主として市の公債に依つて之を調達する外あるまいが、随分高い利率でなければ、此際、又今後暫くの間は、其の募債の出來難いことも確かである。斯かる市債は之を國內に賣出すにしても、國民の愛國心に訴へるわけには行かず、たゞその同情心と貯蓄心に訴へる外はないが、其分では首府再建の爲めに發行する國債證券の如く十分に賣行くべしと思はれぬ。然らば之を外債に仰ぐといふことになれば、やはり之を外國人の同情心に訴へ得るかといふに、そんなわけには行かない。どうしても擔保附くらゐでなければならぬが、今東京市にも横濱市にも擔保となるに足るほどのものはない、國家が保證でもする外はないであらう。外債募集の困難亦思ふべきである。

總べて斯の如く見ることに依て私は、両市復興の事業の大困難事たるを信せざるを得ないが、之れは時節柄まことに止むを得ないことである。両市に對しては氣毒千萬のことだけれども、何

ともする由がない。氣永に辛棒強く事業に當る外はあるまい。

そこで話は又もとへ戻つて、そんな有様だから両市としての復興も亦國家事業としてやつて貰ふ外はないといふ論者の議論が思ひ合されて來るのだけれども、事情果して然りとすると雖も、其の事業が國家事業として行はれ得べきにあらざること、前に論じた通りで、事業の困難といふことは、之を離すべき理由とはならない。一方は理論で一方は事情たるに過ぎぬ。事情で理論を曲げるだけの力は斯かる場合には存せない。それに又事情として見れば、現時の實狀に於て都市復興の爲めに要する費用を國民一般に負擔せしめんとするも、それは到底行はれ難い事情がある。といふのは、現時一般の傾向として大都市が膨脹發達するのは田舎の犠牲に於て行はれ、都市が發達すればするだけ田舎特に農村は荒廢する傾向があるのだから、此際二大都市復興の爲めに、其負擔を國民一般に課するに於ては、愈々以て此の傾向は助長せられ、田舎の人々は到底甘むて之に應せぬであらう。特に我國の如く東京に對する社會一般の崇拜熱の高かつた所では、之に伴ひ東京に對する(といふよりは寧ろ東京を代表者とする大都市一般に對する)田舎の反感もかなり痛切なるものが潜在して居るから、その燒失したるは洵に同情に堪えない所だとするも、今又復舊の手傳をすることだけは御免被りたいといふ感じの、田舎に起るありとするも、如何とし難き所である。首府の再建事業とは異りたゞ二大經濟都市の復興といふ問題なのだから、田舎

の人々が斯かる心理に陥つたからとて之を非愛國的だとか非社會的だとか咎むべき理由はない。若し其咎を口にする者あらば、田舎の人々は咎むる人々其者を非社會的なりとして之を憤るであらう。

要するに理論から謂つても事情から謂つても、首府の再建といふ事業と、經濟都市としての東京市及び横濱市の復興といふことは、全く別個の事業で、前者が愛國的に比較的容易に成就するべき望あるに反して、後者の事業の頗る多難なるべきは、今回の震災に就いて、其の復興策を致ふる者の誰しも之を思はなくてはならぬ所なりとする。私は首府再建の事業の爲めには國民は双肌ぬいでかゝらねばならぬと思ふけれども、經濟都市としての東京市及び横濱市の復興は之を經濟自然の成行にまかせ市民自身の奮發に委ぬる外なきを信する者である。我國經濟一般の實狀が兩市の復活を是非とも必要とするものならば、兩市は必ずやあらゆる困難に打克つて復活するであらう。天命は結局人意よりも有力である。(九月十五日)